



大阪府茨木市

安心・安全・健康をモットーに 「本業と農業の相乗効果」へ

かぶしきがいしゃ ふ きしよくけん
株式会社富貴食研

WEB サイト : <https://www.fuki-food.com/>

参入法人の概要

法人形態：リース法人

代表者名：代表取締役社長 岡田 恒周

所在地：大阪府茨木市東太田 1-2-1

設立年次：平成 11 年 1 月

資本金：2,800 万円

親会社：なし

営農形態：露地野菜

主要作物：たまねぎ、にんにく、米

経営面積：2ha（うち借入 2ha）

主な販売先：自社製品の原材料として使用

売上額：586 百万円（うち農業売上高 188,750 円）

農業従事者数：常駐 1 名（繁忙期に社員を 2～10 名派遣）

●農業に参入した目的を教えてください

当社は、食と健康の原点に立ち返り、安心・安全・健康をモットーに、化学調味料、保存料不使用にこだわったドレッシングなどの加工食品を製造する食品メーカーです。

加工食品の原材料は、なるべく国産、有機 JAS 認証のものを使用していますが、有機農産物を生産している農家の離農やオーガニック商品の需要拡大により、原材料を確保することが難しくなってきたことから、自社商品の原材料を確保するために農業へ参入しました。



自社商品

●当該土地を選んだ理由を教えてください

農業参入は、専門用語や知識が必要なうえ、農地を見つけるのも難しく、最初の足掛かりを見つけるまでのハードルが高いです。2020 年当時、米の需要拡大に繋がる商品開発の相談を受けていた農機具製造会社に豊能町を紹介してもらい、農地中間管理機構を通じて 10 a の農地を貸借したのが始まりです。

●当該作物を選んだ理由を教えてください

当社で製造するドレッシングなどの加工食品の原材料にするため野菜や米を栽培しています。

栽培する作物を選ぶにあたっては、①原材料として使用する数量が多い、②獣害が少なく、栽培がし易い、③栽培から加工に至るまでの設備投資が小さいとの観点から作物を選定し、現在栽培面積



たまねぎ生産圃場



稲のはさがけ

の上位3品目は、たまねぎ(40a)、にんにく(15a)、米(10a)となっており、その他にも様々な農産物を栽培しています。

●参入にあたって栽培技術面等の課題にどのように対応されましたか

栽培技術や農業経営は、社長が大阪府農業大学校で行われた研修に参加して習得し、大阪版認定農業者になりました。

また、社員4名が豊能町主催の「とよの就農支援塾」に参加し、栽培技術や農業経営を学びました。

生産性向上の面では、機械化を推進しています。たまねぎは当初、苗を手植えしていましたが移植機を導入しました。

〈活用した補助事業〉

- ・2025年9月 農空間を活かそう事業(大阪府事業)により、ほ場の法面のカバープランツ施工の半額を補助。
- ・2025年12月 みどりの食料システム戦略推進交付金のうち有機転換推進事業(農林水産省)(令和6年度補正予算、令和7年度当初予算)により、有機農業の生産を開始するに当たっての有機資材(有機石灰)等の経費を補助(令和7年度69a作付け)



たまねぎの収穫

●販売先、販路についてはどのように確保されましたか

生産した作物は、自社製品の原材料として使用しています。

加工した商品は、小売業者に納入するほか、自社のホームページや直売所などで販売しています。

●農業参入してみて気づいた(参入するまで気づかなかった)のはどのようなことですか

食品メーカーとして、国産農産物の需要は高いと感じています。国産農産物を使用して効率的に商品を製造するために、当社の農場近くの土地を活用して加工施設や倉庫を建設したいと考えています。思い描く施設の建設ができれば収穫したての農作物を加工原材料として使用できる機会が多くなり食品加工の幅が広がると考えます。

また、女子社員を農場に派遣するには、女性用のトイレや更衣室など、女性が安心して作業できるような厚生施設が必要だと気づきました。

●地域の方や農業委員会、JA、自治体との関係について気を付けていることがあれば教えてください

当社の農場がある地域では、毎年4月中旬に水路清掃があり、若手社員が大勢手伝いに行きます。その地域は高齢者が多く、水路清掃は重労働なこともあり大変喜ばれています。

今後はもっと地域との繋がりを深めていく中で、他の地域も含めて100haの規模拡大ができればと考えています。



水路清掃の様子

●今後の経営方針について教えてください

有機加工食品の認証事業者となって有機 J A S 認定商品を製造・販売していますが、新たに農産物の有機 J A S 認定を取得したいです。

また、これは願望に近いのですが、経営面積を 100ha まで増やすことが目標です。

栽培する作物では、商品製造時に使用する原材料や調味料の元となる作物を生産したいです。具体的には、菜種油を多く使用するので菜種の生産にチャレンジして国産菜種油で商品を製造したいです。ただし、菜種の生産にあたっては、広大な栽培面積が必要となり、油の精製に必要なプラントに多大な設備投資が必要となるため、将来的な願望となっています。

そして、中山間地でも持続可能な農業経営ができることを証明し、企業の農業参入におけるモデルケースとなれたらと考えています。

●今後、農業参入しようと考えている企業へのメッセージをお願いします

本業と農業の相乗効果が出るような企業だと成功するのではないのでしょうか。そのような意味では、食品関係の企業は参入するのによってついでだと思います。